

巻頭言

データの本質を見よう

材料1部

松居正夫



良い研究，役に立つ研究ができるかどうかは，テーマ設定の良し悪しにかかっていると言っても過言ではない。そのために，世の中のニーズの把握，研究情報の入手等事前調査を怠り無く行っている。しかし，新しい独自テーマの設定となると，技術の発達著しい現在では，そう簡単にひらめかなく，苦慮しているのが現実ではなかろうか。

一方，研究では，テーマ・展開方法の設定の後，実験・解析と続く。特に，実験や解析は研究者が立てた仮説に基づく現象に触れる大切な時期であるとともに，多くの時間を費やす日常活動でもあり，この日常活動の中に新しいテーマが潜んでいることも事実である。かつてのTDプロセス^{*}（金属の表面硬化被覆技術）や，最近のNO_x吸蔵還元型触媒等は，実験を重ねて行く中で，当初の狙いとは全く異なった現象を見逃さず，それを深く追求したことにより新しい発見に繋がり，新しい独自テーマとして当初の狙い以上の大きな成果を生み出した良い例であろう。

要は，日々の実験，解析の中で一点一点の現象やデータをいかに詳細に見，考え，検討するかが重要であり，それらのデータがテーマ設定時の仮説に対して異常であれば，そこに新しい現象・テーマが潜んでいると常に考えてみる必要がある。すなわち，一点一点のデータの本質を探り，データに対する感性を地道に磨いていくことが研究者の要件であり，かつ，次の新しい独自研究の設定に繋がる一つの方策ではないだろうか。

^{*} Toyota Diffusion Process